（大正十二年十一月八日第三種郵便物認可）　昭和十三年五月二十六日　常磐毎日新聞　〔木曜日〕　第四千二百十八號　〔一〕

愛國稅の完納に
此際遲れをとらじと
驀進した商店主三名
事變意識を反映する特別稅

長期戰に對抗して去る四月一日全國一齊に實施された支那事變特別稅は平稅務署管內の稅額九千五百卅五圓四十九錢に達し七十二商店を數へて居り何れも來る三十一日迄に各市町村郵便局に納入する事になつて居るが此の「愛國稅」を怠つては銃後の恥辱であると熾烈な愛國心を發揮して早くも左記三名は稅務署から申告されると同時に完納した

△植田町呉服町質商渡邊德之助氏△同町靴商佐藤カツさん△平市二丁目油商田巻榮一氏

煙草小賣人
昨日の總會席上
廿四名を表彰

平專賣局出張所管內煙草小賣人總會は既報の如く二十四日午前十時から郡山專賣局長吉田勘三氏臨席の下に會員七百餘名出席、平第三小學校に開催、左記優良小賣人二十四名の表彰式を擧行した

△平市佐藤正己　須藤スミノ△四倉町菅波康太郎△江名町安龍サノ△下小川村有我蘭松△內郷村山崎喜一△平市宗像國二　大坪光夫△鈴木キタ　河又新一△小名濱町野崎ハツ　比佐定治郎△植田町間宮信一郎△川部村赤津太久△勿來町日渡彦助△內郷村直井博△久ノ濱町志田茂好△湯本町橋本八彌△夏井村山名仙之助△飯野村鈴木重雄△赤井村鈴木定勝△澤渡村中村テイ△好間村西倉忠兵衛△磐崎村島津トメ

平市會
廿七日開く

平市會は廿七日午後一時より市會議事堂に開き左記諸件を附議する

公設質屋條例設定の件　商業學校建築費起債變更の件、昭和十三年度歲入歲出豫算更正の件　損害賠償請求事件和解の件、不用品賣却の件

自治記念
式典順序

既報來月一日行はれる自治制發布五十周年記念式てんは左記の順序で行はれる

△午前九時奉告祭（子鍬倉神社）
△同十時物故者慰靈祭（第一小學校）
△同十一時自治功勞者表彰式（同）

◦海軍志願豫備訓練　平市在鄉軍人海軍部では二十四日午後三時から平市出身の海軍志願者六名に對し豫備訓練を行つた

◦公會堂の內部設備　平市公會堂は愈よ落成が近いので內部の長椅子や簡單椅子を設備する爲め本廿五日午後一時から建設委員會を開いて協議を遂げた

◦手付金詐欺捕る　久の濱町生れ住居不定無職鈴木定次郎(二六)は去る三月一日平市南町古物商菊地某から廢物の發動機を買ると稱して手付金二十円を詐取した外大町金井古物店、同材木町濱田古物店から同樣三十圓を詐取した事發覺二十四日平市內を徘徊中平署員に檢擧された

薩摩の守がバスで暴る

三坂村生れ目下住居不定炭鑛坑夫大竹拾次郎(四四)は二十三日正午頃無一文で福島から高湯行のバスに乘込み料金六十錢を催促されて暴れたので福島署に檢擧され今二十五日平署に身許照會があつた

社告

目下本社は印刷工場の強震被害修理に全力を擧げて居ります從つて不体載な紙面ではありますが休刊せずに繼續する苦心を買つて戴いて暫らく御辛棒を願上げます

四月廿五日

常磐毎日新聞社
社長　川崎文治

愛讀者各位

今晩の部

▼後六、〇〇　科學物語
▼後八、三〇　新日本音樂「かきつばた」恰明會
▼八、五〇　連續ラヂオドラマ「東郷元帥」新國劇

三井タクシー
平二　電話六八五番

平市人事

◦出生
△四丁目一四小野昌孝(三四)氏長女文子ちやん

◦婚姻
△古鍛冶町七蓬田秀二(三二)氏と材木町一一渡邊キヨ(二六)さん

常磐毎日新聞社
白柄銀座
大島多良夫作
井川洗崖 布施哲也 村田孝次 映畫

箱根山中（二）

「俺もその力を貸さうと思つて居りましたに」

と、彈正助も口を添へた。しかし、源太は鄕味がないやうに、カラ〳〵と笑つた。

「まあ〳〵俺の事て居ることを聽つて見てゐなさい。俺は暫く去ふやうちやが飛出されちや、地藩には明るい、道を歩いから、大和にとつて、十津川藩といふ藩路を繼續する。これが大藩の繼續ではない、併し、ゑうした藩路になると紀州藩の隣が通つて居る。藩も十津川藩えをして置くへ入ると思はない、鉢總理に委しいものでないとね」

「はゝあ、聽て十津川藩といふことは聞いて居りましたが、十津川藩さは紀州へ出るので御座りますか」

と、國雄は源太の顏を見た。源太は首を振氣なく振つた。

「いや、藩もさう思ふが……そこは藩を用ゐる、十津川を避つて越しい山道を前へ〳〵と取つてゆく山も深い、谷も深い、暗や猪や鹿の類がぞろ〳〵と繁殖ひをしてゐる、其處を通行して高野山の背後へ出るのぢや」

「なるほど」

と、國雄は感歎してホンと膝を打つた。

「だが……併し、これがうまく行くか何うか解らない、何しろ、人間の通る道ではないのだからな、はゝゝゝ」

「はゝゝゝ」

國雄も源太の笑ひ聲も思はず誘ひまれて一緒にカラ〳〵と大きな聲で笑つた。

隣の部屋の中が騷いで來た。

「はゝあ、江戸へでも行くのか、鍵鑰なる女が隣に泊つて來たわい」

と、源太に上つて來る上下の方を指した。

嬉しさに手鍵を遣つた女給人らしい女が、歌聲の上に笑ひ聲を綾に掛つて來る。如何にも艶美な調子は、暴風吟むでもなく、たゞ々として鍵を奏いて來るのであつた。

二丁、三十間、十五間、と次第に馬子が近づいて來たが、源太はその馬子の顏を見と見やつて、

「はてな」

と、小首を傾けたのであつた。馬子の方では既に氣がついてゐたらしかつた。そして、僕に手綱を綴り捨つて馬を急がせる。だから馬子は、ドシ〳〵と近づいて來て、

「お、矢つ張り松平氏か」

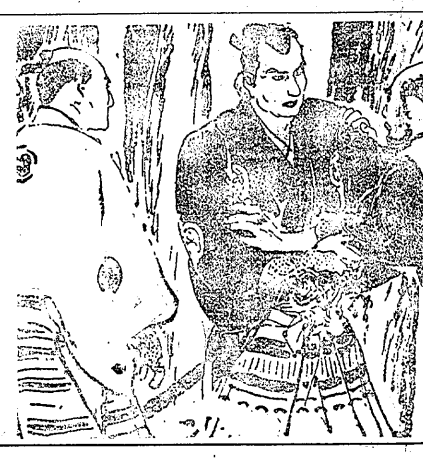
「五左衛門だ、やつと切拔けて來たよ」

「さうか、好かつたな」

と、馬鹿を揮ることに於ては源太も、この點ではそれを揮へることが出來ないで、ウカ〳〵と近づいて來る。

「お棚さんも一緒に來てゐるから、矢つ張り綴しさを揮へる事が出來ず、從つてやゝ馬鹿を避へ得られる事をした。

「お棚さんも一緒に來てゐるから、矢つ張り綴しさを揮へる事が出來ず、從つてやゝ馬鹿を避へ得られる事をした。



五月二十五日　夕刊
日刊
常磐毎日新聞社
常磐毎日印刷株式會社
（振替口座　東京　四二一〇番）

不滅のシンボル

(新興上映 …)

群司次郎正 作 大澤逸子 畫

…第二十二回…

喘ぐ心(5)

汽車でもがた馬車の中でも、人目を忍び〳〵漸く此處へ辿り付いた二人は、初めて自分たちの世界へ出て來たやうな嬉しい氣がして心から吻としたのだつた。

丁度日曜のことで、其頃まだ女學校に通つてゐた靜枝も、今の會社に入つたばかりの杏二も、どちらも休み日であつた。それだけにまた此處へ遊びに來る人たちも多かつた……一寸した溫泉もあり名物の釜飯などがあつたりして、休日には遊覽客が多い所なのだ。

……で、杏二はなるべく人影の少い、餘り繁昌しない茶屋へ入つて

だ腰を掛けてゐるのだつた。

『上ればいゝのに……[illegible]に躊躇するのね』

笑ひながら言ふと、彼女は矢張り綺麗の微笑を美しく紅潮した其の可愛い顏に恰も小波を立てるやうに漂はすことを忘れなかつた。

『あんまり[illegible]當てますね。それに、此處は見通し[illegible]』

傍へ寄つてさう言つた杏二は、途に靜枝を促して、更に一室の奥座敷へと移つた。其處は[illegible]になつてゐて、此方は[illegible]つた。靜枝はそこで漸と厚い[illegible]を脫いだ。

粗末な床を橫にして、海からの風を避けつゝ壁にもたれて並んで座つた二人の心には。此時互に何

物休息した。

女中を呼んで、食べ物などを運ばした後で、杏二は、

『此方へお上んなさい』

と上り框に腰掛けた儘いつまでも處女らしくもじ〳〵してゐる靜枝を幾度も促した。

『えゝ』

可なり冷つこい汐風に、北頭地方に流行つた無雜作な女學生卷の房々した髮の毛も氣持よげに嬲らせながら、うつとりと夢見る人のやうに紺碧を湛へた海ばかり眺めてゐた靜枝は、さう答へてまたにつこりした。

美人といふ女ではなかつたが、中ぐらゐな大きさの眼にあるチャーミングをもつ笑顏の質にいゝ娘で始終にこ〳〵してゐて、相手に好感を與へる女だつた。

他から見えない方の北側に廻つて來た靜枝は、杏二が脩めた座蒲團を紫紺の袴の下へ置いた儘、ま

をも許さない、純なものがはつきりと意識されたのであつた。二人は初めてぴたツと正面したやうな氣がした。互に相手を思つてゐる情熱が、響きとなり音となつて、戀に高鳴る胸から胸へ通じてゐるのだつた。

二人は暫し身動きもしないで、ぢいつと向ふを凝視した儘、默々としてゐた。互の思ひは心臟から心臟へ共鳴してゐるのであるから拙い人間の言葉でそれを表現する要はないといふ風であつた。

春の空は飛び込みたいやうな紺碧と新鮮を感ずる程、蒼々と美しく晴れ渡つてゐる。直ぐ目の下を流れて行く淺の綺麗な小川には、鮎でもゐるのか、時々パツ〳〵と小さな水煙が上つてゐた。

『あゝ、本當に今日はいゝチャンスでしたねえ』

『えゝ。本當に!』

二人は樂しさうに語らつて居た

小店員入用

當社ニ於テ小店員ヲ募集シマス御希望ノ方ハ拙宅ヘ御申出下サイ

一、高等科卒業又ハ中等學校程度ノ方
一、身体強健ノ方

◎俸給其ノ他待遇ニ付テハ御面會ノ上決定致シマス

平市[illegible]小路 **阿部政右衛門**

新綠の「**小瀧は招く**」

一日の清遊には……どうぞ小瀧鑛泉へ!

西洋いちごが出盛つてゐます。猿の子が生れましたとても可愛いです。

鐵道指定旅館 割烹 **小瀧鑛泉** 電話小名濱一〇三番

◎評判の美味しい **"みつ豆"**

蜂蜜入フルーツ みつ豆
東京風アン みつ豆

電話二八 **福壽軒**

初夏!!

カメラの絶好シーズン

新綠を追ふて! 日曜はカメラ 手に〳〵ピクニック

誰方にも初めから立派な御寫眞が出來る手頃なカメラが澤山入荷しました。

カメラと材料店 **いづみやカメラ部** 平市驛前

フケで頭の痒ゆい方に……

三共のサボイド石鹼の御使用をおすゝめ致します。本石鹼は最上の原料により製せられた硫黃コロイド石鹼ですから、其他あらゆる皮膚病の方が用ひてよろしく、又、皮膚病豫防の目的にて常用されれば美容と衛生の上から非常に喜ばしい効果をもたらします。

1ケ20セン

三共株式會社代理店 **西村屋藥局** 平市本町二丁目 電話三番

外科一般 レントゲン科
内臓外科 泌尿・器科

北川外科

平市新川町二七(電話四六四番)
醫學博士 北川芳夫
技師 三浦常保

◎晝夜診療 イツデモ入院出來マス (血液検査毎日)

毛糸編物、毛メリヤス、モスリン、セル、オーバー、人絹ショール本ネル、毛布子供服、婦人服、背廣等のお洗濯に……

特許新洗劑 **モノゲン** 定價 一二〇 三五

今只 各地宣傳中 特約店
二丁目 中野洋品店
〃 四丁目 堀藥局
關内藥局
田町 ハシモトヤ糸店

▲新纖維には。新洗劑▼ **ス・フは決して弱くない**

被服國策の折柄、スフ強制混用に依り、御家庭婦人は其の洗濯に就いて大いに考へねばなりません。スフは決して弱くない水に濡れると、強さが著しく減つて伸びは易く彈力が乏しく、なりますから揉み洗ひは絶對禁物です。又染色も他に比べると多少弱い氣味ですが其の洗ひ方と共の洗濯劑の選定が正しければ完全に御洗濯出來ます

スフにモノゲンが何故良いか

モノゲンは高級アルコールから出來た特許新洗劑で、石鹼とは全々製法や組成を異にし、その性質は中性(アルカリ性でも酸性でもない)で、生地を傷める事なく、只水に浸した丈で落ちる樣な染色でない限り落ちの心配なく美しく洗へ、更に強い滲透力と相まつて、短時間にお洗濯の目的を達しますから、ごし〳〵揉み洗ひをする必要なく、ス。フ織物や其の混用品のお洗濯には理想的です

モノゲン 漬けて十分間揉まずに落ちる

内科 外科 一般

金成醫院

金成忠義 平市鍛田町電話三五八番

平病院(電六四一番)

平市警察署側【元共濟病院跡】

今般副院長トシテ高橋俊幸氏ヲ招聘シ「内臓外科、一般外科、皮膚泌尿器科」ノ診療ニ從事セシム

院主 醫學博士 鈴木定藏
内科 院長 鈴木定藏
小兒科 部長 佐藤幾要司
内臓外科・一般外科 副院長 高橋俊幸
皮膚泌尿器科・レントゲン科 部長 鈴木定藏
物理的療法科 吉川元雄
藥劑科 部長 吉本孝平

◎診療時間 毎日午前八時ヨリ午後九時迄 (夜間診療ニ從事ス)(急患ハ此ノ限リニアラズ)

往診隨時

病室完備…入院隨時【自炊ノ便アリ】

入院料 一日 特等貳圓・一等壹圓五拾錢・二等壹圓參拾錢

婦人科 産科 醫學博士 **五十嵐雄一**

病室增築、手術室完備

平市新川町 電話三六九番

喜多流謡曲と仕舞の お稽古をお奬め致します

入會隨時 平市田町六九

喜多流 謡曲 仕舞 **白土會** 電話二一七番